

# 明治史料館通信

1987. 7. 25 (季刊 年4回発行) Vol. 3 No.2 通巻第10号



奥地航海図 (90×159cm)

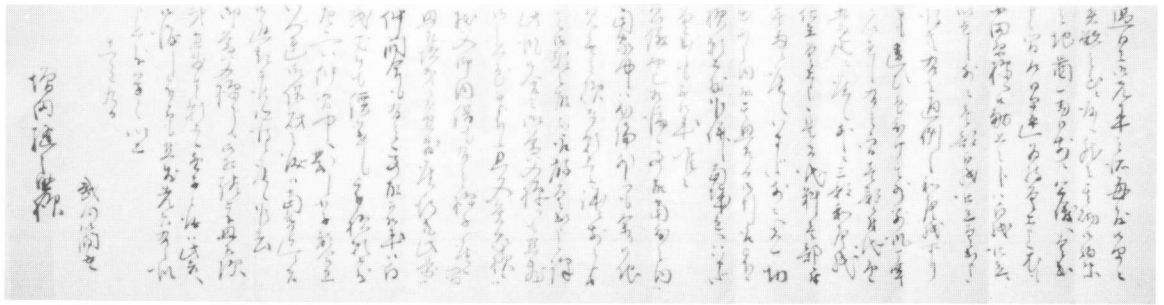
## 史料紹介

### 沼津近代史点描 ⑥

#### 奥地航海図の訳者 武田簡吾の手紙

安政元年(一八五五)、ロシア使節プチャーチンの乗艦デアナ号が駿河湾に沈没した。この事件は、思わぬ副産物を日本に残すこととなった。すなわち、プチャーチンが帰国のために戸田で建造した「戸田号」は、日本人に洋式帆船の造船技術を伝授する役割を果たしたのである。そしてもうひとつ、デアナ号の船室に掛けられていたイギリス製の世界地図が、沼津藩士によって写し取られ、安政五年(一八五八)に「奥地航海図」として翻刻・出版されるに至ったのである。メルカトル図法によるこの地図は、原本に忠実に、極めて精密に描かれたものであり、その後維新後に至るまで度々再版され、類似品が出るほど、当時において最高の世界地図とされていた。もちろん現在も地理学史上高く評価されている。そして何よりも、これが沼津という一地方都市で刊行されたということが意義深いのである。校閲は江戸の洋学者杉田玄端に委ねたものの、翻訳者は沼津の医師武田簡吾であり、沼津藩士小林信近と服部純がそれに協力した。原本は英語であったわけだが、当時はまだ蘭学全盛が尾を引いた時期であり、翻訳には苦勞したらしい。彼らは沼津藩における英学の先駆者といえるかもしれない。

以下に紹介する史料は、初めて見つけた武田簡吾の書簡であり、「奥地航海図」刊行当時の状況の一端を垣間見せてくれる興味深いものである。それは、沼津市歴史民俗資料館所蔵「小海増田家文書」中に残されていた。



増田縫之助宛武田簡吾書簡（沼津市歴史民俗資料館所蔵 内浦小海増田家文書 A-73）

過日者御先来之所毎度御早々失敬之至ニ存候然者其御約束之地図一両日前ニ公儀へ差出申候間次日早速為持差上申候尤も小田原様へ御献上之分ハ白紙仕立ニいたし外二巻部白紙仕立差出申候得共右者通例之和唐紙ずりとも違ひ色分ケ其外別段丁寧二いたし有之候間巻部二付代金五百足ニ御座候外二三部和唐紙仕立差上申候是者代料巻部二付巻両ニ御座候いまだ外々へ者一切出不申内故其思召ニ而御引取被下候様願上度併し当城主へはいまだ差出ニも不相成唯々公儀而已相済候事故当分之内ハ当家中ハ勿論外へも余り御他見無之様奉願上候誠ニ前々之御頼之故不取敢差出申候訳此段御含ミ御尊父様へも宜敷御申上度可被下候且又尊家様ニハ拙父御内借も有之候様子ニ御座候間思召次第ニ而宜敷御座候得共此図ハ仲間合も有之候事故可相成ハ白紙丈ケも価御遣し被下様願上度左候へハ仲間中へ対し小子都合上いづれ御借財之儀ハ当暮迄二者御返却可仕心得ニ御座候乍去御尊父様も御相談被下思召次第宜敷奉願上候金子之儀ハ此

者へ御渡し被下候而も宜敷先者右之段申上度草々以上  
十一月九日 武田簡吾  
増田縫之助様

① 御約束の地図（すなわち幕府）の文面からは以下のようなことがわかるのではなからうか。

② 増田縫之助へは、白紙仕立のもの二部、和唐紙仕立のもの三部の合計五部を渡したこと。

③ 白紙仕立のうち一部は、小田原藩に献上されたこと。

④ 和唐紙仕立のものは、代価が一部一両であること。

⑤ 白紙仕立のものは、「色分ケ其外別段丁寧二いたし」た特別製ともいふべきもので、代価は和唐紙仕立の三倍以上もする五百足だったこと。

⑥ この時点においては、幕府に献上したのみで、当城主（すなわち沼津藩主水野氏）にはまだ提出していないということ。従

って、余り他見をせぬようにと依頼している。

⑦ 武田の父は増田に借金があるらしく、地図の代価は白紙仕立のもののみでよいと言っている。

⑧ この地図の製作にあたっては、「仲間中」すなわち共同製作者がいたこと。

なお、十一月九日という日付については、「輿地航海図」の刊行が安政五年仲春だったことから考えると、同じ安政五年か、もしくはその前年かもしれない。

また、この手紙の受取人増田縫之助については、何者であるのかよくわからない。この手紙が増田家文書に残されていたということは、当然同家の人と思われるが、伊豆国君沢郡小海村の名主・津元だった歴代の当主には、縫之助という名前は見当らない。増田という姓を称している点も、単なる百姓身分の者とは思えない。当時小海村は小田原藩領であったが、ひよっとすると、この縫之助なる人物は、小海増田家から出て、小田原藩に武士として取り立てられていたのかもしれない。

シリーズ

沼津兵学校とその人材 ⑨

新発見の沼津兵学校旧蔵書

これまで、沼津兵学校の旧蔵書として確認された本は、国立国会図書館にある洋書9部、沼津市立

であり、この4冊は沼津兵学校の旧蔵書とはいえない。

駿河図書館「沼津文庫」中の洋書9部・和書5部10冊、静岡県立中央図書館にある洋書5部25冊・和

ところ、これ以外に、沼津市内の個人宅に沼津兵学校の旧蔵書

漢書5部87冊、神奈川県立金沢文庫にある地図1部のみであった。

がわかった。その内6部は大野家所蔵のものであるが、これはたぶ

（昭和五十五年の『葵』13号に山口博氏が発表された「沼津兵学校

勤方などの役職を勤めた関係上、同家に伝来したのだらう。また、

旧蔵書について」では、「沼津文庫」中の『西医略論』3冊と『英

鈴木家所蔵の1部は、やはり御先祖の鈴木亮平が沼津兵学校の後身

和对訳袖珍辞書』1冊を兵学校の旧蔵書に含めているが、前書は沼

沼津中学校の学務委員を勤めていた関係によるものと思われる。

津病院の旧蔵書であり、後書は「徳川氏改印」という印を「徳川学

以下、それらを列挙してみる。印記が兵学校旧蔵の証拠である。

校印」と読み間違えたための誤解

〈大野寛孝氏所蔵分〉

1 駿台閑語（写本）

全2冊（乾、坤） 266×177ミリ（以下単位略）

印記：「沼津学校」（大）

2 駿台逸話（写本）

全3冊（上、中、下） 265×175

印記：「沼津学校」（大）

3 駿台雑話

全5冊（巻一〜五） 宝鳩巢著

浪華書林村松文海堂・柳原積書

圃 寛延3年11月 254×180

印記：「箱館御役所」「沼津学校」（大）「駿府学校」

4 改正翁問答

全3冊（上、中、下） 中江藤樹著

東都書肆嵩山房 天保2年8月 260×184

印記：「沼津学校」（大）

5 慶元軍要録 初編

全8冊（巻一〜八） 高崎津田重藏明馨著

練丹居塾蔵版 文久3年5月 260×179

印記：「陸軍所」「沼津学校」（大）

6 三字經

全1冊 宋王伯厚纂 庚午八月

二梅凝之書 254×172

印記：「静岡学校之章」

7 瀛環志略

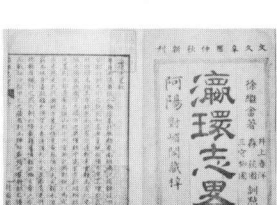
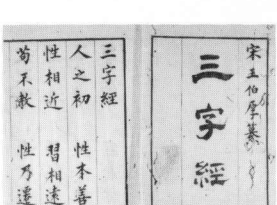
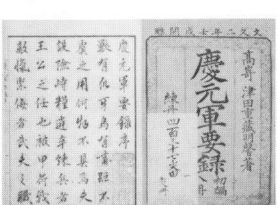
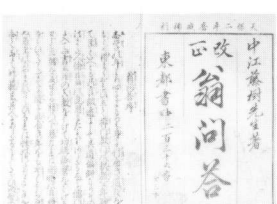
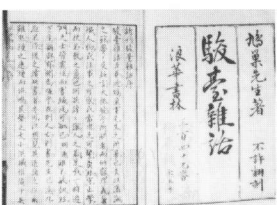
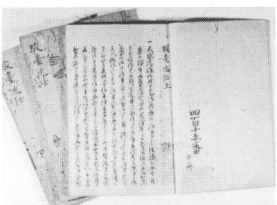
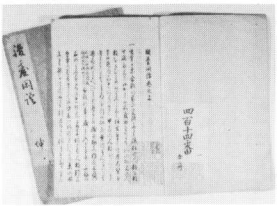
全10冊（巻一〜十） 徐繼畲著

井上春洋・森荻園・三守柳圃訓点 阿陽対唱閣蔵梓 文久元年

259×178

印記：「沼津学校」（大）「沼津中学校章」

卷三のみ「沼津学校」（小）「沼津小学校」「沼津中学校章」



お知らせ欄

◎企画展「浮世絵に描かれた沼津」が開幕します。

8月1日から9月27日まで、東海道五十三次シリーズなどを中心に沼津や原の宿を描いた浮世絵を収集して、企画展「浮世絵に描かれた沼津」を、4階展示室を会場に開催します。

浮世絵師たちの目を通して、江戸の庶民たちがどのようなイメージで沼津を見ていたのか、この展示で探ってみましょう。

●広重をきっかけに

有名な広重の「東海道五拾三次」は、天保四年（一八三三）から五年にかけて、保永堂版として発行され、爆発的な人気を得ました。この人気に刺激され、多数の絵師

が浮世絵東海道シリーズを描き、数えきれないほどの種類の「東海道もの」が誕生しました。

今回の展示会では、初代広重の「隸書東海道」「行書東海道」「狂歌東海道」などをはじめ、役者絵の得意な三代豊国の「役者見立東海道五十三次」、美人画の得意な溪斎英泉の「美人東海道」、北斎の「東海道沼津之富士」など、それぞれの絵師の持ち味が生かされた作品が展示されています。

●沼津垣やかつお節づくりが

これらに描かれた沼津と原には富士や愛鷹山を背景に、沼津の名産であったかつお節づくりや、西風に舞う砂ぼこりをよけるために生み出された沼津垣が街道の風物として多く描かれています。

また、歌舞伎や浄瑠璃で有名な「伊賀越道中双六沼津之段」の芝居に登場する平作、十兵衛、およねの三人が盛んに描かれ、江戸の庶民が、この芝居を代名詞に沼津を記憶していたことをうかがわせます。

●東京や岡山からも

この展示会では、地元沼津の浮世絵

初代広重画「五十三次沼津」人物東海道



※企画展記念講演会をもって、夏の歴史講演会に代えさせていただきます。

●古文書解読入門講座の受講生を募集しています。

古文書をはじめて読む入門者を対象に、江戸時代や明治時代の親しみやすい郷土資料をテキストとしながらくずし字などの解読力を養う講座です。自分の力で歴史をひもとく楽しさを味わってみませんか？ことは夜の時間帯を設定しましたので、どうか気軽にお申込み下さい。

とき…9月3日(木)、9月10日(木)、9月19日(土)、9月24日(木)、10月1日(木)、10月8日(木)

いずれも 十八時～二十時

ところ…明治史料館 講座室

講師…市立高校教頭 友野博先生

定員…三〇名

受講申込み…当館まで 電話にて

記念講演会

▽とき 八月九日(日)

十四時～十六時

▽ところ 明治史料館 講座室

▽講師 太田記念美術館

学芸部長 永田生慈氏

▽演題 「浮世絵の歴史と作品」

(スライドを交えての解説です)

沼津市明治史料館通信 第10号

編集 沼津市明治史料館

発行 沼津市西熊堂372-1

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(23)三三三五